

右評議仕候趣書面之通御座候、御下之書類返上、此段申上候、以上、

西二〇年嘉永十二月

東條八大夫

中村次郎八
中田新太郎

東條八太郎

〔七十冊物類集養生所南北小口〕

年番
名主

小石川養生所之儀、貧窮之病人共、願出次第、逗留療治被仰付候處、此度町醫師之内、療治功者之間有之もの、御撰之上、出役被仰付、御扶持方、并藥種料をも被下置、藥品は勿論、藥煎方等迄致吟味、爲相用候筈ニ候、尤逗留中は、朝夕之食物被下置、其上夏冬之夜具衣類等迄不自由無之様御貨物相渡候ニ付、聊入用等相掛り候筋無之候間、鰥寡孤獨之病者不及申、縱令看病人有之候共、極貧ニ而藥給兼候者は、勝手次第逗留之儀可願出候奉行所江は別段ニ不及訴出、名主又は名主無之町々は、月行事加判之訴狀を以、宿或は家主成共、相店之もの成共、壹人ニ而直ニ養生所江可願出候、病人呼出し、并相歸り候節は、町役人差添ニ不及、右同様壹人呼出し、都而手重之儀無之様致遣候間、壹町限り取調、極貧ニ而藥給兼候病人有之ば、當人不心付候共、名主家主共致世話、養生所逗留之儀爲相願可申候、且其日暮之もの、病難等之節は、同店之もの共、相互ニ救合候儀と相心得、步行難相成、駕籠人足等相雇候手當も無之ものは、相店之もの共世話致し、養生所江召連、聊ニ而も入用不相掛様取計可遣候、若又逗留之儀相願候もの有之候而も、町役人共等閑ニ致し置候歟、又者無謂入用等掛り候段相聞え候ニおるては、其品ニ寄、急度答可申付候間、其旨相心得、窮民御救之御